

さんフェア 福祉ブースに参加して ~ ハンドマッサージが大人気 ~



3年 浅野 慎一
 今年度の「さんフェア」に参加し、他校の方々と一緒に福祉のブースでハンドマッサージなどを行いました。その中で来場者の方々の疲れを癒やし、喜んでもらいながら、コミュニケーション力を高めることが出来ました。今回の参加を通して、**福祉を学ぶ他校の皆さんと仲良くなる**ことができ、協力しながら、笑顔あふれる活動が出来たと思います。

←左の写真:福祉を学ぶ登米総合産業と迫桜の仲間と一緒に

さんフェア 福祉部門の代表として発表 ~ 演題「介護福祉を学んで」 ~

3年 平間 彪也
 たくさんの発表を聴くことができ、自分たちが学んでいる“介護分野”以外の“異なった分野”を学んでいる高校生の学習や取組を知ることが出来ました。発表会では、はじめて触れる分野も多く、**同じ高校生同士で、多くの情報を交換しながら、意識を高め合うことができた**と思います。

県庁講堂での発表 →



2年生・女川高等学園との交流会 ~ ペタンクを地元の方々といっしょに ~



2年 阿部 美奈
 12月5日に女川高等学園を介護福祉科2年生全員で訪問しました。到着後、地域の方々で行っているペタンクを初めて体験し、わくわくしたり、そわそわするとても楽しいゲームでした。女川高等学園の皆さんが分かりやすくその場で説明してくれたので、楽しく活動することができました。**私たちも地域の方々や中学生、小学生に楽しんでもらえるようにペタンクを広げたい**と思いました。

ラオスの子どもたちとの交流会 ~ 地球の子ども通信国際交流事業 ~



3年 小林 なるみ
 ラオスからお出でになった皆さんに、介護福祉科の3年生5名がお手伝いをし、アイマスクを付けてもらって白杖体験をしました。初めは「怖い」、「暗い」などの不安な声がありましたが、活動が始まると、笑顔で楽しく行っていました。**外国の方々にも介護福祉について学んでいただき、とても良かった**と思います。

「地球の子ども通信」を通じて来日したラオスの12歳から13歳の子どもたち9名を12月5日に明成高校にお迎えし、介護福祉科、調理科、剣道部等が国際交流を目的とした活動を行いました。

目指せ!介護のスペシャリスト 実学ひとすじ 好きを未来につなげよう -Practical Learning For All-

学校法人 朴沢学園
明成高等学校
介護福祉科通信 NO.5
 介護福祉科(介護福祉士養成コース・介護員養成コース)

平成30年12月18日発行
 〒981-8570
 仙台市青葉区川平二丁目26-1
 TEL 022-278-6131~5
 FAX 022-277-5130
<http://www.hgm.ed.jp/>

大阪・京都への修学旅行 ~ 11月27日~30日 3泊4日 ~

2学年担任 支倉 淳美
 今回の修学旅行は少人数だからできること、多くの体験や人との出会いを通して一人ひとりが自分自身を見つめ直し、**新たな発見や課題をみつけてステップアップしてほしい**という想いで計画しました。どうだったでしょうか?
 成功だったかどうかはこれからのみなさんの活動次第だと思います。山下勝巳さんとの出会いから、援助者としてではなく、一人の人間として、大切な人との関わりをどのようにしていくべきなのかまずは考えていくことが必要です。**たくさんの学びから考えたことやアイデアを行動にうつしていけるように、クラスでもうひと踏み張りたい**こうね。



ATCエイジレスセンターを訪問して
2年 佐藤 瀬菜
 初めてみる福祉用具が数多くあった。**実習先で出会った利用者さんにはこの福祉用具や自助具が使いやすいのではないかと考えながら学習することができた**。アザラシ型のロボットも人の心を癒してくれて、将来自分もほしいと思った。この施設は日本で最大規模の福祉機器と福祉用具の展示場です。

FIKA3丁目山下勝巳ライブラリー・ケアセンターを見学して
2年 柴田 秀樹
 FIKA3丁目は1階はカフェと時計屋さん、2階はケアプランセンターになっていました。地域の方々が気軽に立ち寄ることができる空間に驚きました。山下さんの話から地域で困っている人たちに寄り添えるような関わり方、接し方だけではなく、**その一人一人の思いや気持ちに共感し、受けとめられる人材になりたい**と思うことができました。(山下さんは大阪の羽曳が丘で先進的な取組を行っています。)



明成高等学校様 秘密基地
 “秘密基地?”
 山下さんのお出迎え

総合司会として大役を果たす ~ 「第33回合唱とアンサンブルの集い」・於:東北電力大ホール ~



3年 齋藤 一輝
 生徒会として人前に立つ場面は多くありましたが、まさか自分が「合唱とアンサンブル」の総合司会を担うとは思っていませんでした。**自分としては、進行をスムーズに行えたい**と思います。(評:本当に素晴らしい司会振りでした。)

全国介護技術コンテストに出場して ～ これまでのご声援に感謝いたします。 ～



監督 榎本寿美代

10月21日(日)山口県山口市「維新百年記念公園スポーツセンター」にて、全国の地区予選を勝ち抜いた12校による「第7回全国高校生介護技術コンテスト」が開催されました。変形性膝関節症のある魚沼さんを誕生会参加のために上着を着替え、歩行器で洗面台まで誘導するという内容でした。

「介護には正解がない」と言われています。
大切なことは“利用者様を想ったよりよい介護であるか”です。生徒たちは優しさにあふれ、細かな気づきに配慮した介護が出来たと思っています。貴女たちの介護は“私は大好きです”今回の「奨励賞」を誇りに思います。
「私を山口に連れて行ってくださいありがとうございます！」
校長先生を初めとする応援をいただきました皆様に心から御礼を申し上げます。

3年 安藤 実汐

約半年間3人で全国大会での最優秀賞を目指して頑張ってきました。目標だった最優秀賞を手にはできませんでしたが、今回の演技が今までで一番良かったので悔いはありません。**応援ありがとうございました。**

〔後輩に託すことば〕

基本的に忠実な支援や気づきがとても大事になってくると思います。最優秀賞を目指して頑張ってください。
介護技術コンテストに参加をすることは、自分の大きな成長につながると思います。

3年 遠藤さくら

東北の代表として、全国大会に挑みましたが、目標としていた最優秀賞に届かず悔しい思いをしました。しかし、選手として出場した他の2人とは半年間一緒に練習してきた、大きな衝突もなく、3人で頑張ってきたので、絆も深まったと思います。楽しかったです。

〔後輩に託すことば〕

笑顔で人を大切に思う気持ちがあれば大丈夫！



〔出場校〕 ◎：最優秀校、○：優秀校

北海道	北海道置戸高等学校	中国	岡山県立備前緑陽高等学校
東北	明成高等学校	四国	愛媛県立新居浜南高等学校
関東	○ 群馬県立吾妻中央高等学校	九州	佐賀県立神崎清明高等学校
北信越	石川県立田鶴浜高等学校	九州	福岡県立久留米築水高等学校
東海	三重県立明野高等学校	前回優勝地区(九州)	○ 熊本県立阿蘇中央高等学校
近畿	奈良県立榛生昇陽高等学校	開催県(山口県)	◎ 聖光高等学校

全国介護技術コンテストに出場して ～ 後輩に託すことば ～



3年 吉田こころ

初めはピリピリした空気感だなあと感じましたが、雰囲気になじめないように、堂々と自信を持てば、緊張しなくなりました。当日、事例の発表直後は少し慌てるかもしれませんが、チームのみんなと話し合う最後のチャンスなので、チーム内で考え方をまとめるため、時間を上手く使うことが大切だと思いました。

また、他校さんとの交流も大変有意義でした。

〔後輩に託すことば〕

チームみんなが同じことを考えたり思ったりしているわけではないので、「私はこうしたいのに」と思うこともあります。相手のいいところと自分の意見との妥協点を見つけ、前向きに話し合うことが大切です。また、毎日一緒に練習をしていると、疲れてしまうこともあるので、休養も取り入れて、リフレッシュすることも大切です。また、大会では、プレッシャーを感じますが、利用者さんを自分のおじいちゃんやおばあちゃんだと思って、心を込めて接して下さい。

来年こそ、明成高校に「東北初の最優秀賞」が来ることを心の中で祈っています。

榎本先生、本当にありがとうございました。



全国介護技術コンテストを見学して ～ 来年度に向けて ～



1年 成澤 碧弥

昨年度とは違い、今年度は元気だった学校が最優秀賞や優秀賞に選ばれ、利用者さんの置かれた状況に応じて接することが大切だと感じました。また、自分の学校だけでなく他校の介助方法や接し方を見て、多くのことを学ぶことができました。

〔来年度に向けて〕

校内選考を見学したときから私は介護技術コンテストに出場したいと思っていました。来年選ばれるかどうか分かりませんが、出場できるよう頑張りたいと思います。授業では、ベットメイキングのところではつまずいていますが、放課後等の時間を使い、技術を身につけたいと思っています。



1年 八木 幸乃

初めて介護技術コンテストを見学し、介護の場面では、2人が協力してやらなければいけないと痛感しました。また、当日発表された課題に沿って、具体的な介護方法や手順を検討するなど対応力の大切さを学びました。さらに、本校の先輩の介護技術の正確さに感心しましたが、他の学校の人たちの技術などを見ることができとても勉強になりました。

〔来年度に向けて〕

明成の先輩のような介護技術を身に付けて、来年出たいなあと感じました。しかし、学校の代表になれなくても、みんなで協力して計画を立てたり、技術を身につけていきたいと思っています。

